

[世界を変えた書物]展 金沢展 出展ブックリスト(一部抜粋/順不同)

下記のリストと合わせて約 140 冊の本を出展する予定です。

なお、出展される本は都合により変更がある場合がありますのでご了承ください。

出展リスト

凡例：以下の書式に従って記述する

著者名(生没年)『書名』、出版地、刊行年、言語、版

.....

- イシドールス(c.570-636)『語源』、アウクスブルク、1472年、ラテン語、初版
- エウクレイデス(fl. 300 B.C.)『原論』、ヴェネツィア、1482年、ラテン語、初版
- アニキウス・マンリウス・セウェリヌス・ポエティウス(c.480-524)『算術教程』、アウクスブルク、1488年、ラテン語、初版
- アリストテレス(384-322 B.C.)『ギリシア語による著作集』、ヴェネツィア、1495-1498年、ギリシア語、初版
- ヨルダヌス・ネモラリウス(fl. 1220)『算術十書』、パリ、1496年、ラテン語、初版
- レギオモンタヌス(1436-1476)『プトレマイオスの偉大なる「アルマゲスト」のヨハネ・レギオモンタヌスによる要諦』、ヴェネツィア、1496年、ラテン語、初版
- アルキメデス(c.287-212 B.C.)『方形化、すなわちカンパヌス、シュラクサイのアルキメデス、ポエティウスによる最大の数学的発見である円の求積法』、ヴェネツィア、1503年、ラテン語、初版
- アポロニウス(c.245-190 B.C.)『卓越せる数学者の全集』、ヴェネツィア、1537年、ギリシア語、初版
- アルキメデス(c.287-212 B.C.)『哲学及び幾何学の卓越せる全集』、バーゼル、1544年、ギリシア語・ラテン語、初版
- ニコラウス・コペルニクス(1473-1543)『天球回転論』、ニュルンベルク、1543年、ラテン語、初版

- ヨハネス・ケプラー(1571-1630)『新天文学』、プラハ、1609年、ラテン語、初版
- ガリレオ・ガリレイ(1564-1642)『星界の報告』、ヴェネツィア、1610年、ラテン語、初版
- ガリレオ・ガリレイ(1564-1642)『世界二大体系についての対話』、フィレンツェ、1632年、イタリア語、初版
- アイザック・ニュートン(1642-1727)『自然哲学の数学的原理(プリンキピア)』、ロンドン、1687年、ラテン語、初版
- ヨハネス・ケプラー(1571-1630)『宇宙の調和』、リンツ、1619年、ラテン語、初版
- ジローラモ・カルダーノ(1501-1576)『代数学の規則についての大きいなる術』1巻、ニュルンベルク、1545年、ラテン語、初版
- ジョン・ネイピア(1550-1617)『驚くべき対数法則の記述』、エディンバラ、1614年、ラテン語、初版
- ルネ・デカルト(1596-1650)『方法序説』、ライデン、1637年、フランス語、初版
- ゴットフリート・ウィルヘルム・ライプニッツ(1646-1716)「分数式にも無理式にも煩わされない極大・極小ならびに接線を求める新しい方法、またそれらのための特殊な計算法」『学術紀要』、ライプツィヒ、1684年、ラテン語、初版
- レオンハルト・オイラー『無限解析入門』全2巻、ローザンヌ、1748年、ラテン語、初版
- ニコロ・タルターリア(1499/1500-1557)『新科学』全3巻、ヴェネツィア、1537年、イタリア語、初版
- ヨルダヌス・ネモラリウス(fl. c. 1220)『タルターリアの研究によって正された重さについての書』、ヴェニス、1565年、ラテン語&イタリア語、初版
- シモン・ステヴィン(1548-1620)『計量法原論』、ライデン、1586年、フラマン語、初版
- ガリレオ・ガリレイ(1564-1642)『新科学対話』、ライデン、1638年、イタリア語・ラテン語、初版
- クリスティアン・ホイヘンス(1629-1695)『振子時計、あるいは時計に応用された振子の運動についての幾何学的証明』、パリ、1673年、ラテン語、初版
- アル=ハゼン(イブン・アル=ハイサム)(c. 965-c. 1040)『光学宝典』、バーゼル、1572年、ラテン語、初版

- ヨハネス・ケプラー(1571-1630)『天文学の光学的部分を扱うウイテロへの補遺』、フランクフルト、1604年、ラテン語、初版
  
- C. H. D. Z. (クリスティアン・ホイヘンス) (1629-1695)『光についての論考』、ライデン、1690年、フランス語、初版
  
- アイザック・ニュートン(1642-1727)『光学 光の反射、屈折、回折、色についての論考』、ロンドン、1704年、英語、初版
  
- トーマス・ヤング(1773-1829)「光と色の理論について」『哲学紀要』第92号、12-48ページ、ロンドン、1802年、英語、初版
  
- トーマス・ヤング(1773-1829)『自然哲学及び機械技術に関する講義』全2巻、ロンドン、1807年、英語、初版
  
- ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ(1749-1832)『色彩論』、テュービンゲン、1810年、ドイツ語、初版
  
- ロバート・フック(1635-1702)『ミクログラフィア』、ロンドン、1665年、英語、初版
  
- ウイテロ(fl. c. 13c)『数学者ウイテロによる光学』、ニュルンベルク、1535年、ラテン語、初版
  
- ヒエロニムス・ブルンシュヴィヒ(c. 1450-c. 1512)『単一素材の蒸留技法書』、シュトラスブール、1507年、ドイツ語、初版
  
- ゲオルギウス・アグリコラ (ゲオルク・パウアー) (1495-1555)『金属について (デ・レ・メタリカ)』、バーゼル、1556年、ラテン語、初版
  
- ジャンバッティスタ・デッラ・ポルタ(1535-1615)『蒸留法九書』、ローマ、1608年、ラテン語、初版
  
- ロバート・ボイル(1627-1691)『懐疑的化学者』、ロンドン、1661年、英語、初版
  
- アントワーヌ=ローラン・ド・ラヴォアジエ(1743-1794)『化学原論』全2巻、パリ、1789年、フランス語、初版
  
- ハンフリー・デーヴィ(1778-1829)『化学哲学原理』第1部第1巻、ロンドン、1812年、英語、初版
  
- ジャン・テニエ (ヨハネス・タイスネリウス) (1508-1562)『磁石の本性とその効果について一生の記憶に値する小品』、ケルン、1562年、ラテン語、初版

- ウィリアム・ギルバート(1544-1603)『磁石、磁性体、そして大磁石としての地球について、多くの論述と実験で論証された新哲学（磁石論）』、ロンドン、1600年、ラテン語、初版
- オットー・フォン・ゲーリケ(1602-1686)『真空についての（いわゆる）マクデブルクの新実験』、アムステルダム、1672年、ラテン語、初版
- ベンジャミン・フランクリン(1706-1790)『フィラデルフィアにおける電気に関する実験と観察』、ロンドン、1751-1754年、英語、第1部（初版）、第2部（第2版）、第3部（初版）
- シャルル=オーギュスタン・クーロン(1736-1806)『電気と磁気についての研究論集』、パリ、1785-1789年、フランス語、初版
- ルイージ・ガルヴァーニ(1737-1798)『筋肉運動における電気の諸作用についての注釈』、ボローニャ、1791年、ラテン語、初版
- アレッサンドロ・ヴォルタ(1745-1827)『異種の導体の単なる接触により起こる電気』、ロンドン、1800年、フランス語、初版
- アンドレ=マリ・アンペール(1775-1836)『二種の電流の相互作用についての論集』、パリ、1820年、フランス語、初版
- ゲオルク・ジーモン・オーム(1789-1854)『ガルヴァーニ回路の数学的な扱い』、ベルリン、1827年、ドイツ語、初版
- マイケル・ファラデー(1791-1867)『電気の実験研究』全3巻、ロンドン、1839年、1844年、1855年、英語、初版
- トーマス・オールヴァ・エディソン(1847-1931)『ダイナモ発電機・特許明細書、特許番号 No. 297,587』、アメリカ合衆国特許局、1884年4月29日付、『アメリカ合衆国版 電気に関する特許明細書と図版 1883年2月1日から1884年1月30日』第29巻、所収、ワシントン D. C. 、1885年、英語、初版
- アレクサンダー・グラハム・ベル(1847-1922)『電話の研究』『アメリカ芸術科学アカデミー紀要』第12巻、ボストン、1877年、英語、初版
- ハインリヒ・ルドルフ・ヘルツ(1857-1894)『非常に速い電氣的振動について』『物理学年報』第267巻第7号、ライプツィヒ、1887年、ドイツ語、初版
- グリエルモ・マルコーニ(1874-1937)『無線通信』『電気学会紀要』第28巻第139号、ロンドン、1899年、英語、

## 初版

- フランチェスコ・ラナ・デ・テルツイ(1631-1687)『序論、あるいは偉大な技術に基づく新発明』、ブレシア、1670年、イタリア語、初版
- バルテルミー・フォジャ・ド・サン＝フォン(1741-1819)『モンゴルフィエ兄弟の気球体験記』、パリ、1783-1784年、フランス語、初版
- ダニエル・ベルヌーイ(1700-1782)『流体力学』、シュトラスブール、1738年、ラテン語、初版
- オットー・リリエントール(1848-1896)『飛行術の基礎となる鳥の飛翔』、ベルリン、1889年、ドイツ語、初版
- ウィルバー・ライト(1867-1912)「航空実験」『西部技術者協会誌』第6巻第6号、シカゴ、1901年、英語、初版
- ロバート・H・ゴダード(1882-1945)『液体燃料推進ロケットの開発』、ワシントン D. C. 、1936年、英語、初版
- アメリカ合衆国大統領調査委員会「スペース・シャトル・チャレンジャー号の事故に関する大統領調査委員会報告」、ワシントン D. C. 、1986年、英語、初版
- ジェイムズ・クラーク・マクスウェル(1831-1879)「電磁場の動力的理論」『フィロソフィカル・トランザクションズ』第155号、ロンドン、1865年、英語、初版
- ヘンドリック・ローレンツ(1853-1928)「マクスウェルの電磁気理論と運動体への応用」、ライデン、1892年、フランス語、初版
- ヘンドリック・ローレンツ(1853-1928)『運動物体の電気現象と光学現象に関する試論』、ライデン、1895年、ドイツ語、初版
- アルバート・A・マイケルソン(1852-1931)&エドワード・W・モーリー(1838-1923)「地球と光エーテルの相対運動について」、『ロンドン・エディンバラ・ダブリン哲学雑誌・科学雑誌』第5次第24巻151号、ロンドン、1887年、英語、初版
- ルネ・デカルト(1596-1650)『哲学の原理』、アムステルダム、1644年、ラテン語、初版
- ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン(1845-1923)「新しい種類の放射線について」、ヴュルツブルク、1895-1896年、ドイツ語、初版
- ピエール・キュリー(1859-1906)&マリー・スクヴォドフスカ・キュリー(1867-1934)「ピッチブレンドに含まれ

る新放射性物質について」『コント・ロンデュ・ド・ラカデミ・デ・シアンス (科学アカデミー報告)』、パリ、1898年、フランス語、初版

●マックス・プランク(1858-1947)「正常スペクトルにおけるエネルギー分布の法則についての理論」『フェアハントルンゲン・デア・ドイッチェン・フュジカリッシェン・ゲゼルシャフト (ドイツ物理学会の討議)』第2巻、ライプツィヒ、1900年、ドイツ語、初版

●マリー・スクウォドフスカ・キュリー(1867-1934)『放射性物質の研究』、パリ、1903年、フランス語、初版

●アントワヌ・アンリ・ベクレル(1852-1908)『物質の新しい性質の研究』、パリ、1903年、フランス語、初版

●アーネスト・ラザフォード(1871-1937)『放射性変換』、ロンドン、1906年、英語、初版

●アーネスト・ラザフォード(1871-1937)「軽い原子と $\alpha$ 粒子の衝突」『フィロソフィカル・マガジン (哲学雑誌)』第37号、ロンドン、1919年、英語、初版

●エルヴィン・シュレーディンガー(1887-1961)『波動力学についての四講』、ロンドン、1928年、英語、初版

●ロバート・A・ミリカン(1868-1953)『電子、陽子、光子、中性子および宇宙線』、ケンブリッジ、1935年、英語、初版

●オットー・ハーン(1879-1968)&フリードリヒ・ヴィルヘルム・フリッツ・シュトラスマン(1902-1980)「低速中性子によるウランの核分裂」、ベルリン、1939年、ドイツ語、初版

●ヘンリー・スマイス(1898-1986)『アメリカ合衆国政府助成 (1940-1945)のもとに行われた原子力の軍事目的利用開発の概要』、ワシントン、1945年、英語、初版

●アメリカ合衆国戦略爆撃調査団「広島、長崎に対する原子爆弾の効果」、ワシントン、1946年、英語、初版

●湯川秀樹(1907-1981)「素粒子の相互作用について」、東京、1935年、日本語、初版

●長岡半太郎(1865-1950)「線および帯スペクトルと放射能現象を示す粒子 (電子) 系の運動」『フィロソフィカル・マガジン (哲学雑誌)』第6巻第7号、ロンドン、1904年、英語、初版

●ニコライ・イヴァノーヴィッチ・ロバチェフスキー(1792-1856)「幾何学の原理」『カザン通信』第25号 (1829)、第27・28号 (1830) 所収、カザン、1829-1830年、ロシア語、初版

●ボヤイ・ヤーノシュ(1802-1860)「〔附録〕完全に真である空間論」ボヤイ・ファルカス『勉学する青年を数学の初

歩へ導き入れる試み』第1巻、マロシュ・ヴァーシャルハイ、1832年、ラテン語、初版

●ゲオルク・フリードリヒ・ベルンハルト・リーマン(1826-1866)「幾何学の基礎にある仮説について」、ゲッティンゲン、1867年、ドイツ語、初版

●ヘルマン・ミンコフスキー(1864-1909)「空間と時間」『ドイツ数学会年次報告』第18巻、ライプツィヒ&ベルリン、1909年、ドイツ語、初版

●アルベルト・アインシュタイン(1879-1955)「運動物体の電気力学について」『アナーレン・デア・フィジーク (物理学年報)』第4巻第17号、ライプツィヒ、1905年、ドイツ語、初版

●アルベルト・アインシュタイン(1879-1955)「一般相対性理論の基礎」『アナーレン・デア・フィジーク (物理学年報)』第4巻第49号、ライプツィヒ、1916年、ドイツ語、初版

●マックス・プランク(1858-1947)『熱輻射に関する講義』、ライプツィヒ、1906年、ドイツ語、初版

●ヴェルナー・カール・ハイゼンベルク(1901-1976)「運動学および力学的諸関係の量子論的再解釈について」『ツァイトシュリフト・フュア・フュジーク (物理学雑誌)』第33号第1巻、ベルリン、1925年、ドイツ語、初版

●ルイ・ヴィクトール・ド・ブロイ(1892-1987)『波動と運動/量子論研究』、パリ/ライプツィヒ、1927年、フランス語/ドイツ語、初版

●ヴェルナー・カール・ハイゼンベルク(1901-1976)「量子論的な運動学及び力学の直観的内容について」『ツァイトシュリフト・フュア・フュジーク (物理学雑誌)』第43号第3-4巻、ベルリン、1927年、ドイツ語、初版

#### 金沢展特別出展リスト

下記を含む計12冊を特別展示します。

●ブレーズ・パスカル (1623-1662)『液体の平衡及び空気の質量の測定についての論述』、パリ、1663年、初版

●チャールズ・ダーウィン (1809-1882)『種の起源』、ロンドン、1859年、初版

●グレゴール・ヨハン・メンデル (1822-1884)『植物 = 雑種についての研究』、ブリュン、1866年、初版

- アレクサンダー・フレミング (1881-1955)『アオカビ培養基(ペニシリウム)の抗菌作用』、ロンドン、1929年、初版
- ジェームズ・ワトソン (1928-)、フランシス・クリック(1916-2004)『核酸の分子的構造』、ロンドン、1953年、初版
- アメリカ合衆国航空宇宙局 (NASA)『アポロ 11号任務記録 (月着陸交信記録)、月面への第一歩』、ヒューストン、1969年、初版